

一般質問の概要

一般質問とは
区の仕事全般について、区長等に報告や説明を求めることです。



台東区議会自由民主党

もちづきもとみ
望月元美

台東区循環バスめぐりんについて

問 ①現在の4路線については、路線ごとの調査等に基づき、全体的な見直しを行うとしているが、運行のない柳橋地域をはじめ、様々な地域からルート延伸の要望がある中、どのような視点でいつまでに見直すのか。②運行から15年が経過し、この間の本区を取り巻く環境の変化に合わせ、めぐりんのあり方についても見直す時期と考える。他の公共交通機関と連携を図り、区役所を中心としたターミナル化等、区内移動の核となるような公共交通機関としての位置づけを視野に入れた見直しが必要ではないか。

答 ①ルート延伸等の要望は、運行経費の増加などの課題を抱えている。このため、現在、路線ごとの利用実態等を分析しながら、運行されていない地域を含めたルート設定や、経費の増加を抑えた効率的な運行方法等を視点として見直しを行っている。結果については、来年度には示したい。②今後

も社会環境の変化に応じた見直しの必要があることから、中長期的な視点として、提案の趣旨も踏まえ検討していく。引き続き、めぐりんが、利用しやすい公共交通機関となるよう、更なる利便性の向上に努めていく。

教育環境の整備について

問 本区の推計によれば、14歳までの年少人口は平成37年まで増加する見込みであり、将来の人口動態を見極めた教育環境の整備が必要である。蔵前小学校は児童数の増加が確実と判断され、改築されることになったが、今後、同様の事例が生じた場合、どのように対応するのか。特に台東育英小学校は、平成30年度に教室数の不足が見込まれており、早急に対応策を検討すべきではないか。**答** 台東区人口ビジョンの将来推計を踏まえ、学校別の児童数・学級数の推計を行い、適切な学級編制や教室整備等について、方向性を検討している。台東育英小学校を含め、基本的には指定校変更や区域外就学の制限を行い、また、特別教室等の転用により普通教室の確保を行っていくが、より良い教育環境確保のための対応策について、引き続き検討していく。

- その他の質問項目**
1. 安全なまちづくりについて
 2. 待機児童対策について



たいとうフロンティア

ほんめ
本目さよ

2025年超高齢社会を迎えるにあたって

問 ①超高齢社会が進みつつある中、在宅介護の推進にあたり考えるべきことに看取りがある。現在、自宅で看取られる方は1割程度だが、自宅で最期を迎えたい方は7割を超えており、ニーズと現状が合っていない。在宅看取りを推進するための人材育成等、在宅医療の推進が喫緊の課題となっているのではないかと。②結婚・出産年齢の高齢化等に伴い育児と親の介護を同時期に行うダブルケアについて、現状把握に努めるとともにダブルケアを担う方へのサポートを検討すべきではないか。**答** ①在宅療養連携推進協議会において、入退院時の情報を関係者間で共有できる方法を検討している。また、都に対して在宅医療に携わる人材の確保と育成の強化を要望した。引き続き、国や都における看取り支援の実施状況を踏まえ、在宅で安心して療養できる体制整備を推進する。②育児や介護に関する相談業務等において、支援を必要とする各家庭の状況を伺い、ダブルケアの実態を把握して適切な支援に繋げている。引き続き、状況把握に努め対応していく。

区立教育施設の有効活用

問 ①一部の私立保育園では、外遊びや水遊びの場所に困っている状況があり、認可保育園のプールや小学校の校庭を貸し出すなど、地域での連携が始まっていると聞く。これを更に促進するため、区としてサポートすべきではないか。②幼稚園やこども園の短時間利用の保護者の中には、一時的に子供を預けたいとのニーズがあるが、いっとき保育やファミリーサポートセンターは使い勝手がよくないとも聞く。3歳の壁の解消や待機児童対策としても、区立保育園で預かり保育を行うべきではないか。また、こども園における預かり保育の4月休止を見直すべきではないか。**答** ①民間保育事業者からの要望に応じて、実施内容や安全対策等を十分確認したうえで、区立学校等の施設や備品の貸し出しを行い近隣の教育・保育施設間の連携を図っている。今後とも、情報提供と利用意向の把握に努め、民間保育事業所の活動を支援していく。②待機児童の状況等を踏まえ、区立幼稚園での預かり保育の実施を検討する必要があると認識している。私立幼稚園での拡充を引き続きお願いするとともに、区立幼稚園での実施の課題や効果について検証していく。こども園での運用についても検討していく。

- その他の質問項目**
1. 未来を皆が対等な立場で考え共に課題の解決策をつくる「フューチャーセンター」
 2. 教員の勤務実態の把握



台東区議会公明党

てらだあきら
寺田晃

介護支援ボランティアポイント制度について

問 配食や見守り等の生活支援の需要が増え、ボランティア活動など様々な支援体制が求められる中、高齢者が生活支援の担い手として活躍することにより、自らの生きがいや介護予防にもつながる取り組みが重要視されている。高齢者が体を動かすことで、健康維持や介護予防、社会参加による生きがいや社会保障費の抑制につながり、介護の担い手不足の手助けにもなる一石五鳥の効果がある。そこで、第6期高齢者保健福祉計画でモデル実施にもなっている、区民が楽しんで積極的に参加できる介護支援ボランティアポイント制度について伺う。**答** 高齢者施設での活動や社会福祉協議会の在宅サービス支援など、様々な場面でボランティアが活躍しており、その必要性はますます高まっていくと認識している。そのため、本制度については来年度の実施に向け、本区の地域特性を踏まえた具体案を社会福祉協議会と連携しながら検討している。今後、本制度を通じて、ボランティアの意欲を更に高めるとともに、様々な地域活動に参加する機会を増やすことで、高齢者の生きがいのある生活づくりを支援していく。

妊産婦さんに優しい環境づくりについて

問 ①妊産婦の方から、産前産後の間は自転車の利用を控えてバス等の交通機関を利用する機会が増えるため、乗車料金の補助等の要望がある。妊産婦の自転車利用は細心の注意が必要なことから、安心して出産育児ができるよう支援を考えるべきである。本年4月に開始した、ゆりかご・たいとう事業で差し上げている1万円分のこども商品券を、循環バスめぐりんで利用できるようにしてはどうか。②妊娠や出産、育児休業等を理由とする職場での嫌がらせを防ぐ、マタニティハラスメント防止措置を企業に義務付けた法改正を受け、妊産婦が安心してできる職場環境構築のため、事業者向け講習会や周知活動等を行うべきではないか。**答** ①ゆりかご・たいとうは、国及び都の補助事業であることなどから、こども商品券のめぐりん乗車券との交換は様々な課題があるため、研究していく。②法改正に伴い、国や都が実施する啓発事業等に協力するとともに、産業振興事業団等と連携し、区内の事業者に対して講習会を実施するなど、普及啓発を図っていく。

- その他の質問項目**
1. 人情味あふれる支え合いのまちづくりについて
 2. 文化観光施策の推進について
 3. チェックリストの採用や笑いの文化を活用した自殺予防対策の強化について



つなぐプロジェクト

とみながりゅうじ
富永龍司

放置自転車対策について

問 ①先進事例等を検証し、新たな対策を検討すべきではないか。②自転

車走行空間の整備状況や景観の観点からも、駅周辺という点で捉えず、浅草通り全体での対策が必要ではないか。**答** ①駐輪場の整備等を更に推進するとともに、交通機関の利用促進や先進事例も検証し、新たな対策を検討していく。②駐輪スペースの確保に引き続き努めるとともに、都と連携しながら連続性のある対策を検討していく。

障害者スポーツ振興について

問 ①健常者と障害者が分け隔てなくスポーツを楽しめる社会とするため、新たに策定する台東区スポーツ振興基本計画は、ユニバーサルデザインの見地に立って取り組むべきではないか。②共生社会の実現のため、小中学校に

において、共にスポーツに取り組む活動等を通して相互理解を図ってはどうか。

答 ①更なる障害者スポーツの振興について、計画を策定する中で検討していく。②区独自のオリンピック・パラリンピック教育推進プランの取り組み等により、より一層の障害者理解の促進を図るなど、共生社会の実現に向け努めていく。



日本共産党台東区議員

すずき のぼる
鈴木 昇

子育て支援施策について

問 ①小中学校の入学準備に費用がいくら必要と考えているか。調査すべきではないか。②生活保護受給世帯の入学準備金の支給水準を実態に合わせて引き上げるべきではないか。③就学援助の入学準備金は義務教育入学前に給付すべきではないか。④眼鏡の購入費も就学援助の対象にすべきではないか。**答** ①入学準備の費用は、まとまった負担になることは認識しているが、必要なものの範囲や購入額等は家庭により様々であり調査になじまないと考えている。②支給額は国の定めた基準に基づいている。③新入学児童生徒学用品費の入学前支給については、前年の所得額を就学援助の認定の基準としているため、現時点では考えていないが、他自治体の実施状況等を検証していく。④眼鏡は日用品としての性格が強いため、対象としていないが、援助費目については、就学援助の目的等から適切に判断していく。

ではないか。②よみせ通りの9階建てマンション計画に対する住民運動から何を感じ、まちづくり方針や地区計画にどのように反映させるのか。③まちづくり方針等で初音の道などの道路をどのように位置づけていくのか。④木造住宅密集地域の不燃化建替え助成額を引き上げるべきではないか。簡易水道消火器具を仕々に設置すべきではないか。**答** ①地区内への流入交通の抑制につながり、歩行空間の安全性確保にも効果的なことから必要な路線であると認識している。②地域の方々が谷中地区の街並みや景観を大切にしていることを再認識した。現在、まちづくり方針の策定に向け、地域の方々の意見等を聞きながら検討している。具体的な建築物の規制等についても意見をよく聞きながら必要な検討をしていく。③防災性の向上と谷中らしさの保全を目標とした安全な道路空間の実現に向け、地域の方々を中心に今後の取り組みの方向性について検討を進めている。④昨年度、不燃化建替え助成制度の対象を拡充した。今後も周知に努めるとともに、利用しやすい制度にしていく。簡易水道消火器具については、今年度、谷中地域を含めた木造住宅密集地域等への配備を予定している。

谷中の街並みと防災について

問 ①環状3号線と補助95号線の都市計画道路の廃止を都に提言すべき

その他の質問項目 1. 政府の社会保障方針大改悪路線についての区長の姿勢について
2. 皮革産業振興について



台東区議会自由民主党

こじま さとし
小島 智史

国立西洋美術館世界遺産登録に係る今後の取り組みについて

問 世界遺産となった国立西洋美術館の価値をより多くの方々に知ってもらうための取り組みを、今後、区民や地域団体と一体となってどのように進めるのか。**答** 上野公園での登録記念イベントの開催やパネル展等を実施する。更に、区内商店街とともに登録記念のフラッグを掲げる等の取り組みを進めていく。今後も区民や地域と一体となり、「世界遺産のあるまち」台東区の魅力を国内外に発信していく。

館を区長部局に再編してはどうか。②様々な部署が行っている生涯学習講座に体系的な統一性が欠けている問題等を踏まえ、行政計画等にある(仮称)台東区民カレッジの制度設計を行うべきではないか。③総合型地域スポーツクラブのたなかクラブに、障害者スポーツを戦略的に導入すべきではないか。④勤労者のスポーツ実施率向上のため、学校施設の利用時間を状況に応じて午後10時まで延長してはどうか。⑤長時間の滞在を前提とした図書館づくりが重視されていることから、⑦図書館1階にWi-Fi環境を整備すべきではないか。⑧生涯学習センター4階にラーニングコモンズを整備してはどうか。**答** ①教育行政の政治的中立性、継続性、安定性を踏まえ研究していく。②生涯学習において取り組むべき課題が多様化・複雑化している状況等を踏まえ、(仮称)台東区民カレッジの創設を進めており、体系的な学習プログラム等はこれの中で検討していく。③たなかクラブでは、誰もが参加できるよう教室の充実を検討している。また、新たな台東区スポーツ振興基本計画を策定する中で、障害者スポーツの振興に必要な長期的な視野に立った支援を検討していく。④実施した場合の効果や近隣への影響、利用者の意向等を踏まえ研究していく。⑤⑦他の自治体の状況等を参考に検討していく。⑧施設の管理等に関して課題も多いため、既存のスペース等のより有効な利用を促進していく。

生涯学習基盤整備について

問 ①生涯学習基盤を更に強化するため、生涯学習課、スポーツ振興課、図書

実現に向け、必要に応じて関係機関に働きかけていく。③大会開催を捉えた取り組みを着実に推進することで運動習慣の定着を図り、更なるスポーツの振興に努めていく。④国道は概ね完了しており、都道や区道の一部も着実に整備を進めている。関係事業者との連携により、2020年までに区内のバリアフリー化が一層進むよう、積極的に取り組んでいく。

児童相談所の設置について

問 児童虐待の相談件数は、全国で10万件を超えており、児童虐待の防止や子供の貧困化への対応は、喫緊に解決すべき重要課題である。この度の児童福祉法改正により児童相談所の設置が可能となったが、本区での設置について所見を伺う。**答** 特別区への児童相談所設置が規定されたことは、児童福祉行政の更なる充実強化につながる。現在、各区が児童相談所の設置について検討を進めており、特別区としても児童相談所移管連絡調整会議を設置し、人材や財源の確保、都区間の連携等の諸課題について検討している。

その他の質問項目 1. 国立西洋美術館と今後の活性化について
2. 公共空間の活用促進について



たいとうフロンティア

こうの じゅんのすけ
河野 純之佐

東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについて

問 ①国や都道府県では、東京大会に出場を目指すアスリートに対して様々な支援を強化している。本区から一人でも多く出場を果たすよう、アスリートを支援すべきではないか。②マラソンが本区で開催されるよう、組織委員会等との連携に積極的に取り組むべきではないか。③オリンピックレガシーとして、区民の健康志向が将来にわたり続いていくための取り組みについて伺う。④駅や公共施設を結ぶ道路のバリアフリー化を進めるべきではないか。**答** ①アスリートに対する試合会場等の優遇や一段上のレベルを目指す取り組み等を、新たな台東区スポーツ振興基本計画を策定する中で検討していく。②最終決定へ向けての協議動向を注視するとともに、本区での開催

観光施策について

問 最近増えている小さな子供を連れた外国人旅行者の満足度を高めることは、次なる旅行者の発掘につながると考える。そこで、海外からの子連れ旅行者に対する今後の方向性と取り組みについて伺う。**答** 区有施設や駅等に設置されたおむつ替えのスペース等を安心して利用できるよう、区ホームページ等で紹介するとともに、ピクトグラムでの案内も行っている。引き続き旅行者の様々なニーズを把握し、利便性向上に役立つ情報を多言語で紹介する取り組みを進めていく。

つなぐプロジェクト



あべ みつとし
阿部 光利

地域完結型医療について

問 本年7月に策定された東京都地域医療構想の中で、地域完結型医療の確立が明記された。そこで、誰もが住み慣れた地域で生活を継続するための医療体制整備に向けて、現状の課題と今後の方向性について伺う。**答** 区は、平成13年度より台東区医療連携推進会議を設置し、関係機関と連携して地域医療体制の構築に取り組んできた。慢性期病床は、長期入院が必要

な高齢者のために、これからも一定数を確保する必要がある。また、在宅医療に携わる医師等の人材育成や、台東病院の在宅療養支援窓口の充実等、支援体制の整備を進めていく。